

### 第3回 市役所新庁舎整備検討に関する有識者会議 議事要旨

- 日 時： 2023年（令和5年）7月28日（金） 10時00分～12時00分
- 場 所： 明石市民会館 第1・2会議室
- 出席者： 【委員】 新川会長、大塚副会長、本保委員、八幡委員  
【その他】 設計業務受託者：(株)安井建築設計事務所 南浦氏、粉川氏  
オフィスレイアウト業務受託者：(株)オカムラ 畠田氏
- 資 料： ・会議次第  
・資料1 新庁舎整備に関する市民ワークショップ 開催結果  
・資料2-1 新庁舎整備に関するアンケート調査 実施結果（概要）  
・資料2-2 新庁舎整備に関するアンケート調査 報告書  
・資料3 新庁舎（設計内容）への意見反映（案）

#### 1 開会

（会長）

- ・基本設計で定めた建物の配置や構造などの基本的な内容、また、ワークショップやアンケートで頂いた意見を踏まえ、今後の実施設計に向けて、新庁舎がどのような機能を持った施設となり、また、市民のための施設となるのかについて、今回の有識者会議の中で議論して結論を出していきたい。

#### 2 報告事項

##### (1) 市民ワークショップの結果について

- ① 資料1に基づき、事務局より説明
- ② 質疑応答

（委員）

- ・大事な意見が多くあり、私が見えていなかった内容もあった。これらの意見をどのように集約し、実施設計にいかしていくのが大切である。

##### (2) アンケート調査の結果について

- ① 資料2-1、2-2に基づき、事務局より説明
- ② 質疑

（委員）

- ・期間が短く仕方ない部分もあるが、通常、明石市の規模でアンケートを行った場合、2,000～3,000件の回答があると思う。また、問14の自由意見については、意見を集約するのではなく、別紙に記載する形でもいいので、意見の具体的な内容がわかるようにしてほしい。

（委員）

- ・私は、この短期間で278名から回答があったのは、よく集まった印象を受けている。回答方法について、郵送等で個別に対応した件数は全体のうちのどの程度か。今後のネット利用の動向に関わると思う。

(事務局)

- ・今回のアンケート調査では、2名について郵送等で個別に対応した。

### 3 議題

#### (1) 設計内容への有識者・市民意見の反映について

- ① 資料3に基づき、事務局より説明
- ② 質疑応答

(委員)

- ・市の公共施設の設計や建て替えにおいて、市民参画手続や有識者の意見を聞くプロセスは、早い段階から行ったほうがよく、これからの時代は、基本設計を行う前に市民参画の機会を担保することが大事だと思う。また、あかしインクルーシブ条例の逐条解説には、「特に施設整備などの場合、事前に行う当事者参画は設計書など図面によるものが多く、実際に整備が完了した後でしかわからない部分が多々あります。整備完了後にも当事者の参画を得て検証及び評価を行うことで、当該整備の事後改善につなげることができ、また施工上改善が難しい場合も、検証及び評価で得た意見等を今後の整備に活かすことができます。」との記載があり、兵庫県のチェック&アドバイス制度や明石市のインクルーシブアドバイザー制度、ユニバーサルモニター制度、ユニバーサルアドバイザー制度など、当事者が施設整備に対して意見できる制度も活用してほしい。
- ・公共が調達する家具や什器については、ユニバーサルデザインの視点を必ず入れるようにしてほしい。
- ・5年に渡る工事となり、時期によって市役所へのアプローチ方法の変更が生じるため、工事期間中のユニバーサルデザイン、バリアフリーについてもしっかり検討してほしい。

(委員)

- ・アンケート結果で海岸線や明石海峡大橋が最も多かったことから、メインエントラスから海側が見えることは素晴らしいと思うが、内装については市民展示などで作り上げていくことが望ましく、内装材で石垣や波等を表現するのではなく、海側の景色に目がいくようにシンプルなものとする方がいい。
- ・立面については、広がったイメージを表現するため、跳ね上げの屋根としているが、海側から誰が見るのか。また、四方向のバルコニーについては、メンテナンスや水平線を強調するための役割から、設置すること自体には賛成しているが、バルコニーの傾斜については、コスト面にほとんど影響がないとしても、垂直と比べると間違いなくコストが上がる。私は不要だと思うが、どうしても傾斜させるのであれば、東西方向は止めて、南北方向のみ傾斜させてはどうか。
- ・トイレの変更案について、誤解を修正しておきたい。女性トイレと授乳室の位置関係については、授乳室と男性トイレが近いことから男性からの視線が気になるということではなく、授乳室と女子トイレの行き来の際に、あまり男性トイレの出入口を見たくないという意図である。授乳室については、LGBTQ+への配慮とは異なり、赤ちゃんを連れていることからそこまで視線を気にすることはない。具体例として、都営地下鉄の改札口近くには、誰でも出入りを見ることができる場所に授乳室が設置されており、男性も入りやすい。しかしながら、男性が外出先で調乳を行う場合は、液体ミルクの販売機もあるため、授乳室のような空間ではなく、

食堂にキッズエリアを設置するなど、もう少しオープンな場所で授乳スペースを確保する方がいいのではないか。資料3－別紙2のトイレ変更案に「授乳室が男性トイレから見えにくくなる。」との記載があるが、授乳室の出入りについては、むしろ防犯等の観点からも周辺から見えた方がいい。

なお、男女トイレ間の壁面位置をずらし、女子トイレ個室の向きを変更した場合、女子トイレの個室数を減らさずに男女のトイレ位置を入れ替えることが可能ではないか。

#### (委員)

- ・有識者会議やワークショップ、アンケート調査など、多岐にわたる手法で得た意見を短期間でまとめたことは評価するが、アンケート調査については、意見数の大小で評価し、最大公約数を採用するのではなく、最小の意見であっても大事な意見は重視していかないといけないのではないか。
- ・淡路島や明石海峡などの美しい自然環境が望める場所をいかした建築というのが明石らしさではないか。変に形質を抽出したものにするのではなく、控えめな建築としながらも、よく見ると人にやさしい自然素材をナチュラルに使用しているなど、自然が美しく見えるような建築を心掛けるといい。主役は市民であるため、例えば、きれいな景色の中で子どもが自由に活用できるプレイコーナーやSNS映えするような景色を背景にした場所など、ソフト面と市民利用エリアが共存していることが、この庁舎の理想ではないか。
- ・第1回の有識者会議の中で、庁舎から海まで歩けるデッキを設置する構想について発言した。今日は、市役所周辺を歩いていて、松並木が防風林として海と並行して続いている明石らしい自然な景観が、庁舎の背景にはいいのではないかと感じた。それだけでも十分に明石らしさがある。
- ・開放感や軒下空間の確保の観点から、1,2階に斜めのカーテンウォールを設置することはいいと思うが、1,2階の空間の連続性がないため、建物内部に入ったときにカーテンウォールが1,2階で連続していることがわかる場所や見下ろせる場所などがあつた方がいい。また、波をイメージした天井材ではなく、天井高を変化させてメリハリをつけるなど、空間の絞り込みが必要だと思う。
- ・トイレの変更案については、男女別々の入口はいいと思うが、待合ロビーからいきなり男子トイレや女子トイレに入るプランは、音や臭いの問題などもありあまり好ましくない。資料3－別紙2に記載があるように、前室空間を介して、待合ロビーからの視線を遮りながら男女別のトイレに入ることができる配慮や不審者が来ても2方向に逃げることができる配慮はいいと思う。また、授乳室について、最近は部屋を作るのではなく、ショッピングセンターや公共施設では、置き式のボックス型で、照明やおむつ替えベッド、モニター等の設備が整った製品が採用されることもあるため、新庁舎で活用してもいいのではないかと思う。
- ・議場の壁をガラス張りにして、廊下を歩いているときなど、普段から議会を身近に感じることができるようにしてはどうかという市民意見があつた。私も開かれた議会には賛成で、最近の傾向として、議場内が見える計画にしている市町村も多い。例えば、南側の壁をダブルスキンのサッシとし、ガラスの間にブラインドを設置することで、学生の勉強部屋などの市民開放、災害時の議場使用、また、議案の内容によってはブラインドを開放し、多目的スペースと議場が連続して使え、議場内の様子がわかるような工夫も必要ではないか。また、そういった開かれた議会について検討することを資料に追記してはどうか。

- ・太陽光発電について、コストや荷重などを総合的に考えると、屋上の太陽光パネルの効率化や拡充により100kWから250kWに変更している資料3－別紙3の見直し案が限界（設置の上限）だと思う。敷地全体で考えても、公用車駐車場への太陽光パネルの設置や今後明石港東外港地区再開発で整備する可能性のある立体駐車場壁面への太陽光パネルの設置、庁舎でのガラス発電など、インパクトのある方法もあるが、非常にコストが高いことから見直し案が限界ではないかと思うが、行政として、カーボンニュートラルの実現に向けて、敷地全体でどのように取り組んでいくのかは検討しておいた方がいい。また、近年では、太陽光発電に限らず環境に関する技術が非常に進歩しているため、シャフトスペースは可能な限り余裕を持って計画し、将来的な設備の拡充に対応できるようにしておく必要がある。災害対策の観点からも、非常時用に2系統のLANを確保することや、1階が浸水しても2階以上は屋上から逆送りに切り替えることで、弱電や一般電灯がすぐに復旧できるようにしておくなど、ダブルでシャフトを確保しておいた方が災害に強い庁舎になる。
- ・食堂の配置について、会議室の集約や全員協議会として利用する考えがあるのかもしれないが、一番眺望のいい場所は南東側であることから、食堂と会議室の配置を入れ替えるなど、将来的に職員だけが利用して市民が誰も来ない食堂にするのではなく、この場所をいかしたプランニングをしてほしい。

#### (委員)

- ・障害当事者にも確認したが、敷地内に横断歩道が4つあり、横断歩道を渡ってバス停にアクセスするルートもあるため、歩行者の安全性を高めてほしい。
- ・市役所は手続きや相談にくる市民の施設である一方で、実際に執務する職員側の課題についても、現在のプランで解決できているのか確認したい。現在の明石市庁舎は、執務スペースが狭く、書類が山積みになり、文書の保管場所にも困っているところもある。職員へのヒアリングは行っているとのことであったが、新庁舎についても面積がコンパクトに設計されており、職員の働きやすさや働き方改革などについて、庁内でどういった議論があったのかお聞きしたい。

#### (事務局)

- ・ご指摘のとおり、市役所は紙が多く、執務場所は文書であふれている状況であり、この点については、企画・調整室、文書管理を所管している総務課及びデジタル推進課が一体となり、紙文書の電子化や電子決裁システムの導入により、新庁舎移転までに文書量を半分にする目標を立て、文書削減に向けた取組を進めている。さらに、職員に配備されているパソコンを順次モバイル性の高い小型の端末に変更していくこととしており、新庁舎においては、会議室へのモニター設置、無線LAN対応、Web会議専用スペースの確保などを行うことで、ペーパーレス会議やオンライン会議に対応するなど、他市の事例も確認しながら、職員が働きやすい環境が整備されるよう工夫している。

#### (会長)

- ・新庁舎は約20,000㎡で予定しているが、1人当たりのスペースはどうなるのか。

#### (事務局)

- ・1人当たりのスペースについては、現庁舎はバラツキが大きく、窓口部署については非常に狭くなっている一方で、その他の部署については少しゆとりがある。新庁舎については、島型レイアウトではなくユニバーサルレイアウトを採用することで効率的な配置としている。また、

紙文書の削減等も行い、書庫や倉庫の床面積を削減するため、執務室については、現状に比べて大幅に床面積が小さくなることはないと考えている。

(委員)

・執務室はすべてOAフロアになるのか。

(事務局)

・執務室についてはすべてOAフロアを採用する。

(委員)

・海の近くで塩害により太陽光パネルなどの設備機器が錆びてしまう。ヨットに使われる塩害に強い太陽光パネルもあるが、塩害対策についてはどのように考えているか。

(事務局)

・中崎小学校などの海に近い場所の施設において、過去に塩害で設備機器の架台等が腐食し、危険な状況になっていることもあった。新庁舎では、材料選定も含め、塩害対策について検討していきたい。

(委員)

・建物を設計する際は、建物だけではなく、周辺エリアのコンテキストや文脈を含めて設計する。そういう趣旨で設計されていることは理解しているが、中崎遊園地の緑地の関係や市民会館など、もう少し広域的なマスタープランやランドデザインを示し、その中で新庁舎を設計してほしい。周辺エリア全体のマスタープラン等を明記したものはあるのか。

(事務局)

・令和元年度に策定した基本計画において、中崎分署も含めて建て替えの是非について検討しており、市民会館については、継続して使用することを明記している。その他のエリアも含め、本来であれば、周辺エリア全体のランドデザインができた後に新庁舎を計画することが理想だが、庁舎の建て替えに係る国の交付税措置の適用期限が迫っていたこと、また、明石港東外港地区については兵庫県が所有する土地であることから、周辺エリア全体を含めた一体的なランドデザインが未確定のまま新庁舎の設計が進んでいる状況である。現在も定期的に兵庫県の担当者と連絡、調整を行っており、今後の県と市の一体開発に向けた取組を見据え、来庁者駐車場2を暫定的に平面駐車場で計画している。

(委員)

・建物だけではなく、ランドスケープ計画も大切であるためしっかり検討してほしい。

(会長)

・植栽計画も含めてどういう景観で整備していくのかについては、明石港東外港地区との連携や周辺の公共施設との将来的な関係を見据え、周辺エリア全体でランドスケープを検討していく必要があるのではないかと。

(委員)

・バルコニーの傾斜については、例えば、海岸に近いところで横風が強いと、雨が外壁にあたるが、バルコニーを斜めにするなどで雨水が垂れないことで汚れ防止になるなど、機能的にど

ういう良さがあるのかについても検討していく必要があるのではないかと。

- ・ランドスケープについては、松並木が庁舎と一体となり、借景として緩い斜面で家が点在している景観が、水平に広い明石市の特徴を生かすことができるのではないかと。海から明石市を見ることはほとんどないが、淡路島から船で明石市に帰ってくる時にそういった明石市の良さを改めて感じた。

(委員)

- ・バルコニーを斜めにすることで汚れ防止の効果があるかはわからない。また、山側からも海側からも屋根を跳ね上げて広がりを見せる必要はなく、水平線を強調したほうが良い。跳ね上げにより費用もかかるわけで、市民感覚と離れているのではないかと。市民意見でもシンプルにしてほしいとの意見もあり、無理やり明石らしきを出そうとするのではなく、こだわる必要のないところは、内装も含め、明石海峡大橋や海岸線の景色になじむようシンプルにしておく方がよい。

(委員)

- ・ワークショップの資料で内観パースが掲載されているが、具体的な内装の仕様はいつ頃決定するのか。

(事務局)

- ・内装については、執務室等は一般的な仕上げとし、1, 6階などの市民がメインで利用するエリアについては少し強調したデザインにしてはどうかという提案で記載しており、具体的な内装の仕様については、12月以降に行う工事費の積算までに決定していきたいと考えている。

(委員)

- ・サイン計画についてはどのように決定していくのか。

(事務局)

- ・サイン計画は現在オカムラに業務委託を行っており、サインの色分けやルビ表記等の具体的な仕様について、内装と同様に10月から11月を目途に検討を進めている。

(株)オカムラ

- ・実施設計がこれから進んでいく状況であるため、具体的な取付位置や形状、大きさ、表示内容などについて検討している。庁舎の従来のサインは建物全体で同じ表記方法であったが、新庁舎については、市民がよく利用する部署は可能な範囲で目的語表記とし、事業者がメインで利用する部署は課名表記とするなどの方法を検討している。また、案内時に「何番の窓口へ」と案内されることも多いことから、窓口番号を付番することも必須であると考えている。さらに、明石市においても書かない窓口を推進していくと思うが、窓口システムも年々進化しており、将来的に書かない窓口の範囲が広がっていくことも想定されるため、可能な限り低コストでメンテナンス性の高いサイン計画としていきたい。

(委員)

- ・サインについては電子案内板やアプリなどのテクノロジーを活用することも考えられる。また、情報過多になることや、反対に必要な場所で情報が不足することもあるため、色々と案を出して検討してほしい。

(委員)

- ・ 24,000 m<sup>2</sup>の大きな敷地面積を有し、また、周辺には、市民会館や明石海峡大橋、海岸線など、ここにしかない場所の特性もあり、これを有効に活用できる方向性を考える必要がある。建物完成後の事業を外構工事として土木行政が行うことがあるが、ランドスケープの考え方については土木行政にはあまり浸透していないため、現在の担当部署がランドスケープを含めて最後まで事業全体をコントロールし、また、早い段階でランドスケープの専門家を招くなど、時間をかけて市民と一緒に検討し、隣地の明石港東外港地区を所有する県に対しても考え方を提案していく必要があるのではないか。

(委員)

- ・ 第1回の有識者会議でも発言したが、市民エリアが多くあるため、建物が完成して終わりではなく、完成した後どのような使い方をしていくのかについても検討してほしい。例えば、最寄り駅から明石高専までの通学路沿いに、兵庫県のアダプト事業により、住民が花壇を維持管理することできれいな歩道空間を形成しておりエリアなどもある。新庁舎についても、市民の関わりしろが多くある庁舎になってほしいと思う。

(会長)

- ・ 明石らしさを外観や内観でどのように表現するかについては、シンプルに海と水平線を大切にしたいデザインが求められているのではないかなと思う。バルコニーの傾斜と屋根の跳ね上げについては、改めて検討してほしい。市民エリアの内装については、高価な素材を用いるのではなく、まちの特性や明石らしさを踏まえつつ、シンプルな内装とし、また、市民と一緒に使い方等を考えていくことで、市民満足度の高い施設に変わっていくという発想を持っていいのではないかな。
- ・ ユニバーサルデザインについては、あらかじめ実施設計段階で検討するものや将来的に使いながら改善していくものもあることを考慮した上で、建物の造りや内装、サイン、設備機器等について、ユニバーサルデザインを実現してほしい。また、トイレや授乳室については、コンセプトも変わりつつあるので、従来型の考え方だけでなく、近年のコンセプトや在り方の変化も含めて配置や仕様を改めて検討してほしい。
- ・ 1, 6階の市民利用スペースについては、市民にとって魅力的で使いやすいものになっているか、引き続き検討していく必要がある。また、市民と一緒に作っていくことや市民が積極的に運営に関わっていくような視点が重要ではないかな。
- ・ 防災面については、災害に備えてメンテナンス性や代替性のあるシャフトスペースの確保及び建物全体の空気循環をどのように考えていくかなど、防災機能と環境性能を一体で向上させることで、維持管理のしやすさに繋がっていくのではないかな。
- ・ 環境への配慮については積極的に検討してもらっている。次のステップとして、将来的な明石港東外港地区再開発のタイミングで改めて検討してもらえればいい。また、今回の計画では、雨水利用等は行いが、太陽光発電が中心になっている。将来的には様々な自然エネルギーの可能性があるので、水循環も含めて検討の余地があるのではないかな。なお、第1回の有識者会議で議論された施設内のゴミ処理をゼロにしていく方法については、今回は対応策が示されていないので、今後の課題として検討をお願いしたい。
- ・ 周辺エリア全体の土地利用については、市民会館や兵庫県が所有する明石港東外港地区、海や駅方向からのアクセスを含めて考えていく必要がある。現時点で具体的な計画が立てられない

ことも確かだが、明石市として、ランドスケープのイメージや展望を持ち、その中で新庁舎の外構や植栽について検討することが求められる。

- ・その他、建物の内装や使い勝手、多くの市民利用が想定される1, 2, 6階の居室のデザイン、カーテンウォールの使い方や天井高の調整、眺望の確保など、市民にとって快適な施設となるよう実施設計においても改めて慎重に検討してほしい。
- ・執務室については、DXや働き方改革など、今後の行政サービスの変化を見据えて、必要な市民サービスに柔軟に 대응されるよう自由度の高い設計としておかないといけない。例えば、議場については、議会の意向も踏まえながら、災害時に避難所として使われる可能性など、柔軟な活用が可能な設計になるよう議場の在り方、壁の仕様について検討していかないといけない。
- ・第1回有識者会議、ワークショップ、アンケートで出た様々な意見を踏まえて、今後の実施設計で具体的な仕様を検討してほしい。この有識者会議では、詳細を固めるところまでは議論できていないが、実施設計段階だけでなく、工事期間中のユニバーサルデザインの考え方や完成後の施設をどのように使うのかなど、当事者をはじめ、市民の参画が必要となる内容が多々あるため、適切な市民参画を実施し、市民と一緒に考えることで、明石市役所が、利便性や快適性が高く、市民にとって憩いの場となること、また、海と山を結ぶ明石の結び目として、市民のアイデンティティや心のよりどころになるよう期待したい。

#### 4 その他

#### 5 閉会